

様式3
令和5年度 香南市幼稚園における学校評価報告書

香南市立野市東幼稚園

経営理念	【教育目標】 えがお かがやく ひがしの子 【経営目標】 『遊びを通して健康なこころからだを育む幼稚園』をめざす 〈子ども像〉 ○明るく元気な子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども ○思いやりのある子ども ○人やものに自分からかわかろうとする子ども ○自分の思いを表現しようとする子ども 〈幼稚園像〉 ○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や知的好奇心を育てる幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 〈教師像〉 ○幼児との信頼関係を大切にせる教師 ○創意工夫して保育する教師 ○意図的・計画的に環境を考える教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○保育の研究・研修に努める教師
------	--

中期経営目標		短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 幼稚園教育要領に沿った教育活動と、幼児期にふさわしい生活や遊びの中で、子ども一人一人に応じた資質・能力を育む。	① 異年齢同士が遊ぶ中で豊かな経験につながる戸外の環境整備を行う。	職員間で週に何度か話し合う時間を設けたことで、年齢や育ちに合わせた遊び場の確保や、同じ遊びでも用具や素材、場、時間帯を分けたことで発達に応じた遊びの保障につながった。遊びが見つからない子どもの姿はなかったが、保育者が側にいないと遊びが終わってしまったり、すべての子どもが目的をもって遊んでいたかという点では、環境構成に課題が残る。	B	異年齢の子どもの育ちを保障しながら交流して遊ぶことは、子どもの主体性や協調性を育むことにつながっていくと期待する。今後も安全面や心身の成長差に配慮しながら取組の継続を期待したい。	B	担任間でしっかり話し合いができている強みを継続しながら、年齢に応じた育ちや子ども一人一人に必要な経験を見極め、環境構成に努めていく。
		② 体を動かす遊びを通して、多様な動きを身に付けられる保育実践を行う。	子ども一人一人の動作に着目し、育てたい身のこなし方を様々な遊びの中で保育者がモデルとなり一緒にやってみた。職員間で子どもの課題を共有し、連携を取りながら意欲につながる援助をしたことで、ほとんどの子どもが体を動かすことが好きと感じるようになった。週1回継続して行っているリズム運動では、友達と一緒に活動したときの達成感や喜びを感じ意欲的な姿を引き出した。しかし、指導方法がっているか不安が残る。	B	継続してリズム運動に取り組み、また、苦手な子どものペースに合わせて無理なく進めていくことで成果につながっている。今後も継続して、様々な動きを意識し、新たにICTを活用して取り組める環境整備をお願いしたい。	B	子どもが体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことを基本に、一人一人の課題を全職員で把握し、個々に適した援助を共有し実践していく。また、計画的に研修の機会を設け、指導方法について研鑽していく。
		③ 幼児が自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられる援助を行う。	子どもの友達関係や性格を考慮して、その子どもの思いに耳を傾け共感したり、認めの言葉をかけるなど必要な援助をしていった。そうしたことで、自分の気持ちを言葉や態度にして伝えようとする子どもが80%以上になった。気持ちを伝える言葉が見つからなかったり、遠慮して言えない子どもへの援助として、生活や遊びの中で自信をもたせていく援助が必要である。	B	子ども一人一人の気持ちに寄り添った保育をしていることで、安心して自分の思いを出せるようになってきている。今後も日々子どもの思いや考えを大切に日常生活から子どもたちが「やりたい」「チャレンジしたい」という気持ちを大切に支援をお願いしたい。	B	引き続き遊びや生活の中で子どもの自信につながる保育を意識しながら、幼稚園生活の中でさまざまな物事に会える機会を大切にし、言葉を知り使い方を学べるような保育を意識する。
職員の育成・資質向上や運営	○ 園務分掌が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する幼稚園を構築する。	① 幼児が危険から身を守るための知識や態度を身に付けられる指導を行う。	保育者から危険を知らせるだけではなく、子ども自ら考えようとする機会を作ってきたことで、子ども自身が自分で考え友達にも注意喚起するようになってきている。遊びが楽し過ぎてその場の状況が分からなくなる時もあるが、整理して伝えていくことで考える力は身に付いてきている。地震訓練においては、身を守るポーズを一つに絞らず、状況に応じたポーズをとっていくように引き続き指導していく。	B	危険予知学習に日頃から取り組めており、危険を感じたら言語化・行動化できる子どもが育ってきている。今後は園のことだけでなく、園外の危険にも着目し、更に視野をひろげてもらいたい。	B	引き続き生活や遊びの中でできまきを伝えていきながら、自分の体や命を守る力、自分以外のまわりの人の安全にも配慮できる力を身につけられるよう指導をしていく。また、避難訓練ではどの職員もが指示待ちにならないよう意識改革に努める。
		② 自らの課題をもち、園内外の研修に意欲的に参加し、研鑽に努める。	日々の業務と研修のバランスを取りながらそれぞれの職員が研修に参加した。研修で学んできたことを職員会等で報告したり、学びを実際の保育に取り入れ、研修の機会の少ない職員に対しても実践を通して伝えたりしたことで新たな気付きにつながることができた。国公幼東支部の事例を通した学びでは、それぞれの職員が積極的に意見を発言したり他の職員の見方を柔軟に聞くことで考察を深めることができた。	B	園内外の研修に積極的に取り組み、保育者の資質や専門性の向上に努めることができています。保護者からの園の活動等への満足度・信頼度も高く、安心して子どもを預けられる園となっている。	A	保育者自身が自分の課題を把握し、スキルアップに必要な研修に意欲的に参加していく。そのための参加体制を整えていく。また、研修後は職員集団へ報告の場を抜かすことなく設け皆の学びにつなげていく。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 保護者や地域に子どもの姿を直接的に伝えるための工夫を行う。	預かり保育を利用している子どもが大半を占めるようになり、子どもの様子を直接伝える機会が少なくなっているが、行事等はドキュメンテーションを使って遅くても翌日には知らせた。また「わくわく便り」として、写真を用いた育ちの連続性を説明した便りは、返信内容から保育者の意図が保護者に伝わり、成果を感じている。登降園時には、ドキュメンテーションやクラス便りなど写真が親子の会話のきっかけとなり、子どもに育まれている心情を感じてもらえる機会になっている。	B	日頃の保育内容や育ち行事について、ドキュメンテーションの作成やお便りの発行など、保護者に対して積極的に分かりやすい情報発信ができており、信頼される園づくりができています。	A	引き続き便りやドキュメンテーションで「保育の見える化」に努め、子どもの探求心や学びを分かりやすく伝えていく。またできるだけ具体的に子どもの姿が伝わるように、端的な言葉を足したり、伝えるポイントをしぼるなど作り方を工夫していく。
		② 保幼小との連携・接続に向け、コロナ禍以前の交流活動が行えるよう職員間の連携に努める。	担当者同士は連携を取りながら交流の事前事後に話し合いを行い、互いのねらい等を共通理解し交流をすすめた。子どもは保育所や小学校生活に関心をもつようになつた一方で、感染症への対応から計画通りに交流ができなかった学年もあった。	C	今後も教職員間で連携を取ったり年間計画に沿って取り組んだりする中で、保幼小連携教育の推進、地域に開かれた園づくりに努めてもらいたい。	B	自園の園児数は今後も減少傾向にあると思われる。保育所との交流で得られる子ども同士の関わりを大切に捉え、年間計画を立てるなど計画的に交流を進める。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要